

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4795500141		
法人名	医療法人ムサザ会		
事業所名	グループホームいけむら		
所在地	宮古島市平良字西里340番地		
自己評価作成日	平成30年12月21日	評価結果市町村受理日	令和元年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JizyosyoCd=4790400156-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	平成31年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○理念にもあるように、「みんなの笑顔は私の笑顔、私の笑顔はみんなの笑顔」とあるように、みんなが笑顔で過ごす事が出来るよう努力しています。
 ○個々のペースで過ごせるよう、寄り添いながらゆっくりとした対応を心掛けています。
 ○個々で家庭的な雰囲気を持ち、掃除洗濯等、家事に積極的に参加して頂き持っている力を活かして行けるよう支援しています。
 ○地域の行事等への参加や、ドライブ買い物も頻繁に行い、心に潤いを持って生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設4年が経過した当事業所は、4階建ての2階に位置し、3・4階には同法人の有料老人ホームが併設されている。事業所内は広いスペースが確保され、各居室にはトイレやシャワー、洗面台を完備し、プライバシーに配慮されている。利用者の入浴日は、毎回シーツ交換を行い、衛生や清潔保持に努めている。入浴は、利用者一人ひとりに合わせた湯温の設定と身体状況に合わせて居室内と共用浴室でストレッチャー浴等が支援されている。事業所は、母体の医療機関と24時間協力体制を構築し、病院への定期受診時の送迎支援や利用者の日頃の健康管理の他、緊急時の対応等連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。食事は、事業所で3食調理し、利用者に合わせて適温の食事や食器の工夫を行うとともに毎食前に温かいおしほりを提供し、衛生面に配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「みんなの笑顔は私の笑顔 私の笑顔はみんなの笑顔」を理念とし、日々笑顔で過ごせるようケアに努めています。	事業所は、開設時の管理者が作成した理念を継続して掲げ、玄関や職員室に掲示すると共に、朝礼で、理念の一行目の「みんなの笑顔は私の笑顔、私の笑顔はみんなの笑顔」を唱和している。管理者は、職員会議で「利用者に対しては、常に笑顔で接するように」と職員に伝えているが、これまで理念について職員と確認する機会が持てなかったとし、理解と周知を今後の課題としている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加や、ホームでの行事等へ参加して頂いたり利用者地域の方との交流が持てるよう支援しています。	事業所は、病院や役所等が並ぶ通りに面し、4階建ての2階に位置しており、地域住民との日常的な付き合いが困難な環境となっている。10月から運営推進委員に地域出身の民生委員の参加があり協力が得られている。利用者の重度化により、外出の機会も減少しているが、車いすで周辺を散歩し、障害児事業所に立ち寄り他、ハロウィンには事業所の子どもたちが訪れ交流している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護について研修を行っており、運営推進会議において、地域の住人に発信しています。	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催しています。入居者や行政担当者やご家族は毎回参加しているが、地域住民や介護事業者の参加がまばらなので、より協力体制の構築をかんがえていきたい。	会議は、不定期に開催され、利用者や家族の参加はなく、行政や包括職員が欠席の回もあり、委員構成に知見者が含まれていない。会議では、活動状況や外部評価結果の課題等は報告しているが、事故やヒヤリハットは報告されていない。議事録は、ファイルにして玄関に置き公表しているが、委員との意見交換の記録が少ない回も見受けられる。 運営推進会議に利用者や家族、行政や知見者等の参加に向けた工夫と2カ月に1回以上の定期的な会議の年6回開催が望まれる。運営の透明性に向けては、事故やヒヤリハットの報告や議事録に各委員との意見交換内容の追記が望まれる。

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で相談や助言を頂き、協力を得ています。又、徒歩で伺える為、意見交換を行い協力関係を築くよう取り組んでいます。	行政や包括職員からは、運営推進会議で「職員の負担軽減や利用者の日中活動の充実に社協のボランティアを活用しては」や「運営推進会議に議事録作成担当の職員の参加を」等の助言を得ている。日頃は、管理者が行政窓口を訪問し、諸制度や事務手続き方法等を相談し、助言を受けるとともに行政による集団指導が実施される等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている研修会において、身体拘束マニュアルを熟読し、活用して実践してケアにあたっています。又、転倒事故防止の為、センサー感知器で対応しています。	「身体拘束をしない方針」により、職員会議で身体拘束禁止のマニュアルの読み合せと身体的拘束適正化についての研修を実施している。身体拘束の適正化の為の指針を作成し、職員全体で構成する身体拘束適正化の委員会を12月に開催しているが議事録は作成されていない。頻りに外出を訴える利用者には、一緒に散歩に出かける等対応し、数名の居室で転倒防止にベット下にセンサーを設置している。	身体拘束等の適正化の対策については、3か月に1回以上の委員会開催と議事録の整備、及び委員会の構成員に外部からの参加が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症等病気の理解をし、研修等の受講により知識を習得し、利用者に寄り添ったケアに努めるようにしています。又、職員の話をよく聞き心のケアにも努めています。	高齢者虐待防止対応マニュアルを整備し、職員会議で虐待防止の研修を実施している。管理者は、職員の疲労度や体調面に配慮しながら夜勤の調整を行うとともに職員の話聴きながら状態把握に努めている。事業所内での不適切なケアを発見時の対応方法等の周知は今後の取り組みとしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員研修を行い、制度について学ぶ機会を持ち、職員の知識向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族へホームでの生活において、誤解や不安感を抱かれないよう、契約時にはサービスの説明や利用料の説明等について同意を求め様になっています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族のホームへの訪問時電話等により、近況報告を行い、意見や要望等を伺うようにしています。	利用者の要望等は、日々の支援の中で「家に帰りたい」や「家族に電話したい」等を聞き、散歩等、個別ケアに反映している。家族からは、訪問時や電話等で聞くよう努めているが「お世話になり、有り難う」の声が多く、運営に反映する意見は殆どなく、利用者の状態変化に応じて「トロミやおかゆ等食事形態を変えて欲しい」等の要望に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、意見や提案を聞き、反映させています。	職員意見は、毎月開催の職員会議で聞く他、管理者も介護職を兼務しており、業務中でも随時に聞いている。職員から「全介助の利用者の入浴はストレッチャーでの対応を」や「ベッドからの移乗時に補助棒の設置を」等提案され、利用者支援に反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に関する給与体制等の考慮がされており、職員自身が働きやすい職場環境づくりに努めています。	就業規則が整備され、労働条件が規定されている。職員へのインフルエンザの予防接種や健康診断(昼勤1回、夜勤2回)を法人負担で実施されている。資格取得に向けては、勤務調整を行い対応し、毎月の勤務シフトも職員の希望を配慮して作成している。職員の給与体系や職員休憩時の職員配置等を課題としている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の職場研修を行い、外部研修にも積極的に参加が出来るよう勤務等配慮をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会を通して交流機会を作っており、運営推進会議においても、他介護事業所との交流があります。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人の自宅等慣れた環境で話を伺い健康状態、生活歴、要望を聞き、本人が安心して生活できるよう心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時には面談をし入居後ご家族の要望を聞き、どのようなケアが良いのか話し合いながら行っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の相談内容や心身状態を把握した上で必要とする支援を考え、サービス提供などの情報提供を行っています。本人やご家族の自己決定により支援を実施しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑顔で接し、寄り添う気持ちを持ちながら、ゆっくりと生活が送れるよう、励まし支え合える生活を心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などでご家族と本人の思い現在の状況を共有し、ご家族と一緒に協力して本人を支え合う支援を行っています。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人などが気軽に訪ねてくれる雰囲気作りを心掛けています。又、外出やドライブで住み慣れた地域に行き、交流が出来るように支援しています。	利用者と馴染みの人や場についての情報は、本人や家族から聞いて把握している。商店を営み、読書を趣味としていた利用者には、日中活動に計算ドリルや図書を提供し、歌の好きな利用者には、カラオケで楽しめるよう支援している。伊良部大橋開通後は、ドライブで利用者の故郷を訪問する等支援している。同級生等の友人の訪問時は、一緒に寛げるよう歓迎し、関係継続を支援している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し席の配置を工夫しながら、利用者同士で支え合えるよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても本人やご家族の関係性を大切にし、遊びに来てもらったり、行事に招待したりして相談や支援が出来るよう努めています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活をする中で、本人の希望や思い、これまでの暮らし方や趣味などの情報をもとに把握し、本人が自己決定できるよう努めています。	利用者の半数は、意思表示ができ、日々の関わりの中で「ここで最後まで過ごしたい」等把握している。「家族がわからなくなる」と不安を訴える利用者には、居室に家族の名前を掲示している。把握が困難な場合は、利用者の行動や表情を観察し、入浴時のお湯加減を本人の表情から判断し、ケアに反映している。職員が方言を使用することで、意思疎通が図れたこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族等から、本人の生活歴や生活環境、思いなどを把握するよう情報収集に努めています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の今までの生活リズムを大切に、現在の生活を記録して、食事、睡眠、排泄などを把握し、生活のリズムを職員間で確認できるようにしています。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族、主治医の意見を取り入れ、毎日申し送りや職員ミーティング等により、課題やケアの在り方について話し合い、現在の本人に適した介護計画を作成しています。	担当者会議には、利用者や家族、計画作成担当者や介護職員が参加し、家族からの「認知機能の低下を防ぎたい」の声に日中活動に「計算ドリルや漢字の書きとり」を介護計画に位置付けて支援している。毎月、モニタリングを実施し、短期目標に沿って3カ月ごとに評価し、定期的見直しは1年を基本としている。状態変化時は、随時に見直すことにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の生活状況や健康状態を個別に記録し申し送りで共有し、介護計画も定期的に確認し、変化があればモニタリングを行い、状況に適した計画の変更を行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族のニーズに対しては、安心安全に暮らして頂けるよう、ご家族職員等と話し合い調整し柔軟に対応しています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民の方にも運営推進会議に参加して頂いています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に定期的及び必要時に受診をしています。又、医師への連絡を密にし、医療面での相談が来ています。	法人医療機関の院長が協力医であり、利用者全員が協力医を主治医として受診している。週2回の定期受診は、家族や職員は付き添わず、医療機関が送迎車に対応している。受診結果は、医師から口頭で報告があり、内容によっては家族に電話で報告をしている。協力医は、24時間、何時でも相談や訪問、入院にも応じており、医療連携が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に看護師の訪問もあり体調不良時の相談や助言ができ、安心して支援が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も、まめに面会を行うようにしています。入院時は医療機関へ情報を提供し、面会時にその後の状況を聞き、退院後の受け入れがスムーズに行えるようにしています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の状態の変化に応じて説明し、終末ケアについて話し合い看取りについて確認しています。又、介護サービス計画更新時に家族に意向を再確認し、看取りについて伺います。	「重度化対応・終末期ケア対応確認書」を作成し、事業所で希望により看取り支援が可能である旨を入居時に家族に説明している。看取り支援は、主治医の判断によるが、現状では、職員研修の未実施や勤務状況による対応が困難で、積極的な支援に至っておらず、病院への入院で対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月行っている内部研修にて、急変時や事故発生時の対応についてマニュアルの確認を行い、今後起こりうる事態について話し合いを行っています。	/	/
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練がスムーズに実施されており、これから行います。	自動火災通報装置が整備されており、業者による毎月の電気設備点検が行われている。風水害時・地震発生時対応についての職員研修を実施しているが、災害時を想定した訓練が未実施となっている。災害時用品の備蓄状況は確認できなかった。	同建物内の3・4階の有料老人ホームも含め、災害時を想定した昼夜想定避難訓練等の実施および災害用品の備蓄の整備が望まれる
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇やプライバシーの研修を行い、入居者の尊厳を尊重し、対応や言葉使い等を改善するように心掛けています。	利用者の尊重やプライバシーについて「コミュニケーションの基本と技術」「倫理・マナー・接遇」の職員研修を実施している。入浴や排泄は、居室のシャワーやトイレを使用し、プライバシーの確保に努め、介助時はカーテンやドアを閉めるよう職員間で確認している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活する中で本人の希望や思いを聞き、話しかけ、表情に注意し、本当の気持ちを探るよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の都合を押し付けがちになっている部分もあるが、本人が今日は何がしたい今何がしたい等の希望がある時は、叶えられるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に着たい衣服を選んで頂き、楽しくおしゃれができるように支援しています。又、起床時ブラシを渡し、自分で髪をとかしてもらえよう支援しています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの可能な方には、出来る範囲で無理強りする事無く、楽しく食事が摂れるよう支援しています。	食事は、法人の栄養士の献立で食材が届けられ、事業所内で職員が3食調理しており、毎食温かい食事を提供している。食べこぼしのある利用者には、丼や深皿等、食器の工夫をしている。正月やクリスマス会等には、行事食で変化をつけている。夜勤職員は、夕食と朝食を利用者と一緒と同じ食事を摂っている。毎食前に温かいおしぼりを提供している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎食記録して、摂取量が少ない場合医師に報告し、適切な対応を行っています。水分量も個々の好みに合わせて楽しく確保できるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	特に朝夕食後の口腔ケアは職員が声掛けし、見守りや介助を行い、うがいや歯磨きを行っています。義歯は毎日チェックして、義歯洗浄剤を使用しています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や状況を確認し、プライバシーに配慮し、失敗しないようにトイレ誘導や声掛けを利用者に合わせた時間に行っています。又、日中と夜間で対応を変えケアをしています。	排泄の自立に向け、「転倒の不安なくトイレで排泄をしたい」との意向には、サービス内容に「自分でベッドや便器に移る」を介護計画に位置付けて支援している事例がある。日中は、トイレでの排泄を支援しているが、夜間は、睡眠確保の目的で、半数の利用者は、4時間置きにオムツ交換が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表や状況を確認し、個々の、排便周期を考慮し、自然排便が出来るよう、牛乳や食事の工夫や運動等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に3回とある程度の設定はあるが、気持ちよく入って頂くよう必ず本人の意向を確認して入浴を行っています。又、入浴拒否のある方も本人のタイミングや声掛け促しを行い入浴出来るようにしている。	週3回の入浴を基本としているが、利用者の希望や外出前等は、柔軟に対応している。入浴は、居室でシャワー浴を行っているが、利用者3人は合同浴室でストレッチャー浴で対応している。入浴前には、必ず各利用者に湯温を確認し、足下から介助するように職員間で取り決め実施している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の良い睡眠が出来るよう、日中は離床し体操や趣味活動を行っています。又、本人の希望や状態により自由に昼寝も行っています。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の種類や効果を、全職員が理解できるよう個人ファイルに綴り、いつでも確認が出来る様になっています。又、本人の状態の変化にも気を配っています。	薬は、職員が各利用者の小箱に名前を入れ、朝・昼・夕と小分けして管理し与薬している。過去に薬の飲み忘れや掃除中に床に落ちている場面があったが、職員間で注意し合う程度で、事業所としては服薬事故としての認識はなかった。服薬支援のマニュアルは確認できなかった	服薬事故防止のため、服薬支援に関するマニュアルを整備し、職員間で周知徹底することが望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の気分に応じ、新聞折り、手作業や外出やドライブ等、希望を取り入れながら気分転換を図っています。		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩やドライブに出かけています。又、初もうでや新聞等に掲載されている地域のイベントには参加するようにしています。誕生日等には、みんなで外食を楽しんでいます。	車いす利用者が6人で、歩行器使用者が3人と全員に歩行障害があり、日常的な外出が困難な状況にある。事業所周辺の散歩やドライブに週1~2回、出ることもあるが、限られた利用者となっている。	個々の利用者の希望や気分転換等の、外出を介護計画に位置付け、支援することが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物時の会計をお願いする事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望する時には、家族等に電話をし話をして頂いてます。又、年賀状等は代読をし本人に伝えていきます。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな窓があり、その日の天気分かり、明るい日の光が差し込み、温かく心地よい空間にし、季節を感じる事が出来ます。季節に合った装飾をしています。	出入り口は、エレベーターを使用している。居間兼食堂の一角にある1、5帖程の畳間は、車椅子から移動しやすい高さになっており、利用者が昼寝をする等、くつろぎの場となっている。居間は、殆どの利用者が居間で過ごし、居室以外にもトイレを設置し、利用しやすいよう配慮されている。廊下は、2mから4m程の幅があり、車椅子の行きかきも容易で歩行訓練の場にもなっている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:平成31年 4月 1日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルとソファがあり気分に合わせ過ごせるよう工夫し、仲の良い方々を同じテーブルにする等楽しい時間を過ごせるよう配慮しています。一人で過ごしたい場合は、廊下の椅子や部屋へ戻られています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるよう、自宅で使用していたもの等を配慮して頂いています。本人やご家族と相談しながら、写真を飾ったりしています。	各居室は、6帖から8帖程あり、広々としており、トイレ付シャワー及び鏡付き洗面台が設置され、プライバシーの確保に配慮された構造になっている。自宅での馴染みの椅子などの家具の持ち込みや、壁には写真を飾ったり、中には夫の遺影や仏壇を持参している利用者もいる。週3回の入浴時には、毎回シーツ交換が行われ清潔保持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所全体がバリアフリーになっており、手すりが設置されています。本人の部屋やトイレが分かるよう大きく名前や写真を掲示したりして分かりやすくしています。		

(別紙4(2))

事業所名 : グループホームいけむら

作成日 : 令和 1 年 5 月 15日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議が定期的に行われていない。記録が残っていない。	運営推進会議を定期的(2か月)に1回行う。事故があった時、ヒヤリとした事があった時は記録を残し、報告する。	運営推進会議が定期的に行えるよう勤務シフトにも掲載して日にちを決定しています。運営推進会議の意見交換内容の記録を残し保管しています。	ヶ月
2	6	身体拘束廃止委員会が行われていない。	身体拘束廃止委員会を職場内ミーティングの日に合わせて行う。	身体拘束廃止委員会を行った後、記録を残しファイルに綴り保管しています。	ヶ月
3	35	年に2回の防火訓練が行われていない。	年間スケジュールを作成し、防火訓練の日程を事前に調整して決定する。	勤務シフト作成時に防火訓練の日程を盛り込みスムーズに行うことが出来ました。	ヶ月
4	47	服薬支援に関するマニュアルが整備されていない。	薬の種類や効果を個人ファイルに綴り全職員が周知出来る様にする。	服薬支援に関するマニュアルを整備中です。	ヶ月
5	49	限られた利用者だけの外出支援になっている。	限られた利用者だけの外出だけでなく、なるべく全利用者にあたるように支援する。	外出を介護計画に位置付けて全利用者に外出できるように支援しています。	ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。